

# 組合だより

発行所  
**岡山大学職員組合**  
 〒700-8530 岡山市津島中 2-1-1  
 電話 086-252-1111 (代)  
 (内線) 7168  
 直通・FAX 086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス [ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp)



左から 榊原副委員長 村上副委員長 中富委員長 荻野書記長 小畑副委員長

## 2003年度 新執行部誕生

委員長 中富 公一氏  
 書記長 荻野 勝氏

去る6月27日の2003年度定期大会で、新年度の活動方針案などが採択されました。また、新執行部が選出されました。副委員長には、小畑隆資・榊原精・村上賢治の3氏が選ばれました。その他各単組選出の執行委員15名、監査委員2名、選挙管理委員2名(次ページ名簿参照)が、新執行委員会を構成します。

## 書記長をお引き受けして



荻野 勝

今年度、書記長になりました、荻野勝です。昨年度は副委員長として、小畑委員長・中富書記長を補佐する役割をしてきました。今年度は書記長ということで、その責務の大きさをひしひしと感じ始めています。特に法人化法案が参議院を通るか通らないかという時期であったため、毎日全大教より送られてくる膨大な情報に驚きながら、その内容に目を通していました。今まで、いろいろな書類が来てそのままにしておくことが多かったのですが、改めて一つ一つの書類の重要性を感じています。また、そういう書類を整理しながら毎日私たちに送り届けてくれる全大教の人たちの労力に

も驚いています。私はもともと政治には全くといっていいほど関心がなかったのですが、3月27日に法人化反対の国会デモ行進に参加したり、今回の法人化法案の参議院での扱いを見たりして、政治そのものに少しずつですが興味を持つてきました。やっと一市民の自覚が出てきたという感じがします。また、一人一人は小さい力でも、言うべきことをきちんとして手続きで主張していれば、少しは政治を動かせるのではないかと、いうことも感じました。

座標軸  
 憲法の保障する学問の自由や大学の自治の理念を踏まえ国立大学の教育研究の特性に十分配慮する。自主的・自律的な運営を確保する。学長、役員会、経営協議会であること、教育研究評議会等がその役割・機能を十分に果たすこと、教授会の役割の重要性に十分配慮すること。役員等は高い識見を有し大学の自主性・自律性を阻害すると批判されることのないよう、節度を持つて対応すること。監事の任命は大学の意向を反映すること。学長選考会議の構成は公正性・透明性を確保し厳格に運用すること。中期目標の実際上の作成主体は法人であるから文部科学大臣は個々の教員の教育研究活動に言及しないこと。原案の変更は、決定過程の透明性を図り変更は真にやむを得ない場合に限り、中期目標・中期計画に係る参考資料等極力簡素化を図ること。大学が基礎的な学問分野の継承発展地域の教育、文化、産業等の基盤を支えていることを評価すること。評価結果と資源配分の関係には慎重な運用に努めること。評価委員は氏名や経歴、会議の議事録を公表し、会議を

公開すること。独立行政法人通則法を準用する場合国立大学法人と十分留意すること。事務・事業の改廃勧告に当たっては大学本体や学部等の具体的な組織の改廃、個々の教育研究活動については言及しないこと。運営費交付金等の算定には公正性・透明性を確保し、従来以上に各大学に必要な研究教育費の所要額を確保するよう努めること。学生納付金は今後も適正な金額、水準を維持すること。労働関係法規等への対応について成立時に違法状態が生じないよう必要な措置を講ずること。大学評価全体の信頼性の向上を図るため必要な資金の確保など必要な援助に努めること。大学教育全体に対して十分な財政支出をすること。地方大学の充実に努めること。勤務条件等の整備が適切に行われるよう努めること。任期制の運用に当たっては教員等の身分保障に十分留意すること。「良好な労働関係」のために職員団体等と十分協議すること。前号に全文を掲載した大法学法人法の附帯決議のポイントを再度摘記した。この付帯決議の精神を堅持して新しい大法学作りに取りかからなければならぬ。

(い)

2003年度岡大職組役員名簿 (2003.6.27)

役職	氏名	所属	職種
執行委員長	中富 公一	法文経	教員
副委員長	小畑 隆資	法文経	"
"	榊原 精	工学部	"
"	村上 賢治	農学部	"
書記長	荻野 勝	環境理工	"
執行委員	平野 正樹	法文経	"
"	恒光 徹	"	"
"	浦川 啓	理学部	"
"	岡田 美德	"	"
"	鈴木 久雄	教育学部	"
"	川田 力	"	"
"	品部 善博	環境理工	"
"	阿部 浅樹	農学部	"
"	平野 健	"	"
"	渡部 健治	附属学園	"
"	石原 洋一	"	"
"	荒嶋 康晴	医学部	技官
"	矢田 範夫	"	技能補佐
"	山崎 典子	"	看護師
"	酒井 峰男	留学生センター	教員
会計監査委員	鈴木 茂之	理学部	"
"	諸川 重剛	環境理工	"
選挙管理委員	奥 忍	教育学部	"
"	味野 道信	理学部	"

全大協  
**教員養成問題**  
**シンポジウムに参加して**  
 7/6

教育学部 奥 忍

去る7月6日に日本教育会館において「教員養成シンポジウム」が、27単組から46名の参加を得て、開催され、4時間にわたって現状分析と提案、議論がなされた。長尾彰夫氏(大阪教育大学副学長)野

村新氏(大分大学名誉教授)、羽田貴史氏(広島大学教授)の3名のパネリストはいずれも大学運営について全国的にも任務を果たしてこられた方々であり、その人たちが「立場を離れての発言を」され

るといふ、興味深い設定であった。詳しくは「全大教通信」に掲載される予定であり、紙数にも限りがあるの

席していかなくてはならない。懇談会「レベルでなせ日本の教育の根幹に

「我が国の教員養成」という概念でひとくくりにできない。個々の大学が個別の教員養成

法論、授業の構成・演出・リズム・音量・発声などの訓練の場が必要である。

なお、現在、岡山大学教育学部では、1年次から教育実習を行う「コア・カリキュラム」導入にむけて作業が進行している。授業期間中に実施することによる通常授業の空洞化、ひいては学生の学力低下を私は危惧している。

**散歩道**

梅雨の晴れ間に、一時涼風があつて、秋を思わせる爽やかさである。昨日までの蒸し暑さがウソのようだ。

朝採りのトマトたっぷり オムレツに 千枝子

昨日まで思い切り降りしきった雨が、河の水を一気に増水させている。泡だつた激流が岸を洗っている。天井川さえ、満々たる水をたたえて流れていく。思い立って、川の源流近くまで車を走らせてみた。山の懐深く乗り入ると、流れの音が一段と高く響いてくる。

(k)